

【0007 自然の権利運動関係資料】

内容

- 1、資料群概要（フォンドレベルの情報）
- 2、資料群の管理と利用に関する情報
- 3、作成主体についての情報
- 4、整理方法についての情報
- 5、資料群内容（シリーズ編成）
- 6、目録凡例
- 7、参考文献

1、資料群概要（フォンドレベルの情報）

- ・受け入れ番号：0007
- ・資料群名称：自然の権利運動関係資料
- ・作成主体：佐久間淳子（さくま・じゅんこ）
- ・年代：1986～2009年（全体）、1995～2006年（主要）
- ・要約：

この資料群は、ジャーナリスト・佐久間淳子氏が、1990年代半ば～2000年代にかけて、自然の権利運動を支援する中で作成・収集・受領した資料を中心に構成される。この運動は、動物や植物といった自然物を原告とする訴訟を起こすことで展開した。

「自然の権利」とは、1970年代に欧米で提起された「人間中心主義」を脱却する環境倫理思想で、自然物への法的な当事者適格を認めることを提起した。日本には、奄美自然の権利訴訟（通称・アマミノクロウサギ訴訟、1995年）を通して導入された。

本資料群は、奄美自然の権利訴訟をはじめとする、日本各地で展開した自然の権利訴訟に関する裁判資料や、支援者・支援団体が発行する印刷物、関連する書籍・雑誌、新聞切抜などが中心的な資料となる。これ以外に、1970年代以降の日本における反開発や自然保護運動に関わる資料や、同時期の佐久間氏の個人活動資料が含まれている。

- ・総量：33箱、390ファイル、3,425アイテム
- ・言語：日本語、英語（少数）

2、資料群の管理と利用に関する情報

- ・出所：この資料群は、2010年6月、法政大学サステナビリティ研究機構・資料公開室（現・法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ）に佐久間淳子氏より寄託された。佐久間氏が作成または佐久間氏の手元に集まった資料からなる。
- ・関連する資料群：0010 徳山ダム建設反対裁判資料、0011 徳山ダム建設反対裁判（住民訴訟関係）資料

- ・利用の形態：原資料による閲覧（一部の資料はデジタル化済み）。一部カセットテープやミニディスク、ビデオテープがある。これらの資料の利用請求に関しては別途検討が必要となる。
- ・利用制限：環境アーカイブズ所定の個人情報取扱に準じる。「自然の権利」基金の理事会関係資料や、写真資料に関しては別途制限を設けている。これらの資料の請求に関しては職員に問い合わせをいただきたい。
- ・引用時の表記方法：所蔵機関、資料群名、資料番号を明記すること。
例)「自然の権利運動関係資料群（資料番号）、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ所蔵」
- ・作成者の権利について：所有権は法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズにある。著作権は個々の資料による。
- ・他機関所蔵情報：なし

3、作成主体についての情報

佐久間氏は福島県出身のジャーナリストである。大学卒業後、出版社で環境問題などを担当し、捕鯨問題などに関心を持つようになる。1990年からフリーランスのジャーナリストとして活動する。

1994年に「海棲哺乳類と人間との関わり研究集会」に参加し、後に、奄美自然の権利訴訟の担当弁護士となる籠橋隆明氏と出会う。籠橋氏らが企画した自然の権利に関するPRイベントに参加したことをきっかけとして、「オール・スピーシーズ・デイ東京大会」（1995年4月15日、於港区・国民生活センター）¹の実行委員会に関わり、1995年以降、自然の権利運動を進めてきた。

佐久間氏は「自然の権利セミナー」（1995年7月発足）の事務局代表を務め、全国各地の裁判を支援した。「自然の権利セミナー」とは、「オール・スピーシーズ・デイ東京」の実行委員会が発展的に解消し、発足した団体である。勉強会の開催や、自然の権利セミナー報告書作成委員会編『報告 日本における〔自然の権利〕運動』第1・2集（〔自然の権利〕セミナー、1998・2004年、以下、それぞれ『報告』1・2と表記する）の企画・編集、「自然の権利」基金の発足記念講演会の企画運営など、自然の権利運動を広める役割を果たした。

また、自然保護のために法的手段を用いる団体への経済的支援を目的に発足した、「自然の権利」基金（1995年4月発足。代表・小原秀雄、事務局代表・籠橋隆明）の理事としても、各地の運動を支援した。本資料群はそのような活動を通じて、佐久間氏が作成・収集・受領したものである。

自然の権利運動関係以外の資料には、捕鯨問題やグリーン・ピース・ジャパンの資料などがある。これらは、佐久間氏が自然の権利運動に関わる以前から、ジャーナリストとしての活動を通じて収集した資料である。

¹ 「オール・スピーシーズ・デイ」とは、1993年に開催された「自然の権利シンポジウム」が発展し、ゴルフ場開発や自然や動植物の保護、環境問題などに関わる有志によって結成された団体である。1994年には京都で、参加者が生物や動物に扮した仮装行列を行うイベントが開催された。1995年は東京で、「自然の権利」という考え方や意味を広めるために、奄美自然の権利訴訟の原告や弁護士、支援者らが、「法廷劇「自然の権利」訴訟」を上演した。（参考：自然の権利運動関係資料（資料番号：0007-B14-0131-000001、0007-B14-B0134-000008）法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ所蔵）。

4、整理方法についての情報

2010年6月に受け入れた。箱ごとに写真撮影をおこない、中性紙封筒・資料整理箱に移し替え、目録作成を行った。2011年12月にファイル50までの目録を公開した。その後は未公開分の資料整理を、サステナビリティ研究教育機構P・D／環境アーカイブズR・Aが継続し、2017年度まで目録作成・修正作業が行われ、詳細なアイテム目録が作られていた。

2022年10月から資料整理を再開し、資料整理状況の把握、公開分・未公開分のアイテム目録の修正・追加作業、全体数の確定と新しい資料番号の付与、シリーズ再編成、資料群概要の修正を行った。また、受け入れの際に混入したと思われる私的資料は返却した。

保存措置としては、ステープレヤーやクリップは除去もしくは中性紙で包み、菌類が発生した資料はアルコール除去を行い別置した。また、ファイル50までと感熱紙の資料はデジタル化している。

5、資料群の内容

資料群の全面公開に際して、50ファイルのみを対象とした旧シリーズ編成（7シリーズ）²を修正し、新たなシリーズ（3シリーズ・20サブシリーズ）を設定した。

編成の方法としては、ジャーナリスト佐久間氏の個人資料群として把握し、まず、自然の権利運動に関わる資料と（シリーズ1・2）、直接的には関わらない個人的な活動資料に分けた（シリーズ3）。

前者のうち、自然の権利運動を支援した「自然の権利セミナー」と「自然の権利」基金の関係資料をシリーズ1とし、個々の訴訟関係資料でまとめられたファイルを、シリーズ2に分類した。

シリーズ1・2にまたがる雑多な資料からなるファイルは、佐久間氏によって一つのファイルにまとめられたという作為性を踏まえ、量的には地域の訴訟関係資料が多い場合でも、シリーズ1に含め、地域の資料はサブシリーズ1に分類した。そのため、内容的にはシリーズ2に区分される資料でも、資料の来歴上、シリーズ1に入っているものがある。資料検索の際はこの点を留意していただきたい。

これらのファイルには、[雑件]、「他」、[関連資料]、[関係]などがファイル名についている。スクラップブックやノートなども該当する。

シリーズ1：「自然の権利セミナー」・「自然の権利」基金関係資料

- ・点数：2,363点
- ・年代幅：1991~2008年
- ・内容： 「自然の権利セミナー」（1995年7月発足、代表：佐久間淳子）と「自然の権利」基金（1995年4月発足、代表・小原秀雄、事務局代表・籠橋隆明）に関する資料が分類される。
サブシリーズ1～6は、すべて「自然の権利セミナー」関係資料である。サブシリーズ7は、

² 2011年12月、当時のサステナビリティ研究教育機構P・Dが作成・公開した。旧シリーズ編成は、活動内容に即した3シリーズ（裁判関係・研究会関係・報告集）と、ファイル形態に即した4シリーズ（雑件・写真・地図・書簡）、合わせて7シリーズに分類していた。【1：自然の権利裁判関係／2：自然の権利セミナー・シンポジウム関係／3：報告集企画・刊行関係／4：雑件／5：写真／6：地図等／7：書簡】

「自然の権利」基金の関係資料である。理事会の資料や、会費・カンパの振込用紙、『「自然の権利」基金通信』、基金主催のシンポジウムの関連資料などが含まれる。

(シリーズ1:「自然の権利セミナー」・「自然の権利」基金関係資料)

サブシリーズ		内容備考	アイテム数
1	自然の権利セミナー	佐久間氏が「自然の権利セミナー」の事務局代表として作成・受領したファイル一般。シリーズをまたぐファイルもここに含まれる。	577
2	『報告 日本における「自然の権利」運動』関係資料	プロ・ナトゥーラ・ファンドの助成を受けて作成した『報告』1・2の企画・編集関係資料(助成金申請書、原稿、校正ゲラ、表紙デザインなど)	160
3	新聞切抜	全国紙の新聞切抜	865
4	オール・スピーシーズ・デイ	「自然の権利セミナー」の前身組織の関係資料	99
5	学会・シンポジウム・研究会	外部の学会や研究会、シンポジウムに関する資料	149
6	書籍・雑誌	図書、雑誌、機関誌、論文のコピーなども含む	368
7	「自然の権利」基金	「自然の権利」基金が作成した資料	145

シリーズ2:自然の権利訴訟・自然保護運動関係資料

- ・点数: 974点
- ・年代幅: 1983~2009年
- ・内容: 個々の訴訟関係資料からなる。自然の権利訴訟運動に関わる資料整理や、『報告』1・2の企画・編集のために収集された³。

「自然の権利」訴訟の資料が中心ではあるが、1995年以前の自然保護住民運動(相模大堰住民訴訟)や、「自然の権利」を訴えの枠組みとして採用しなかった自然保護訴訟(大雪山ナキウサギ裁判、やんばる訴訟など)の資料も含まれる。

サブシリーズ1~13は、『報告』1・2で取り上げられた訴訟に限定して個別のサブシリーズを設けた。訴状などの裁判資料や、支援団体が刊行した印刷物、地元新聞の切り抜きなどが含まれる。サブシリーズ14は、『報告』1・2で取り上げられていない、自然の権利訴訟の関係資料や、それ以外の特定の地域を対象とした自然保護運動の関係資料(支援団体・支援者の印刷物)が含まれる。また、複数の訴訟や自然保護運動に関わる資料から構成されるファイルもここに含まれる。

(シリーズ2:自然の権利訴訟・自然保護運動関係資料)

³第13回サス研フォーラム講演「環境アーカイブズとサステナビリティの探求」(2011年1月30日、於法政大学市谷キャンパス開催)に参加した佐久間氏の発言より。

	サブシリーズ	内容備考	アイテム数
1	相模大堰住民訴訟		21
2	奄美自然の権利訴訟	通称・アマミノクロウサギ訴訟	153
3	オオヒシクイ自然の権利訴訟	一次訴訟（1996年）、二次訴訟（2000年） 両方の関係資料が含まれる	140
4	諫早湾自然の権利訴訟	通称・ムツゴロウ裁判	140
5	生田緑地・里山 自然の権利訴訟		67
6	藤前自然の権利訴訟		13
7	高尾山天狗裁判		15
8	馬毛島自然の権利訴訟		3
9	インドネシアコトパン・ジャンダ ム被害者訴訟		20
11	沖縄ジュゴン訴訟		117
12	やんばる訴訟		9
13	大雪山のナキウサギ裁判		31
14	自然保護運動関係資料	伊豆大島・波浮の港の訴訟（三ツ磯の池を守る会）、小笠原母島観光協会、上原原発を立てさせない祝島島民の会、ツキノワグマと棲処の森を守る会、渥美自然の会、「川と湖の訴訟」を支援する北アルプス市民の会、日の出の森・支える会、北見の自然を守ろう会、長良川河口訴訟関係、愛知万博から「海上の森」を守るネットワーク、日高横断道路など関係資料、沖縄環境ネットワーク、西表リゾート開発問題、八重山・白保の海を守る会、泡瀬干潟を守る連絡会、『かっぱ通信』、『THE WATCHER』、『蒲生を守る会だより』など関係資料	245

シリーズ3：個人活動資料

- ・点数：88点
- ・年代幅：1991～2007年
- ・内容：佐久間氏が、ジャーナリストとして活動を通じて収集した資料からなる。サブシリーズ1の資料は、「自然の権利」運動と同時代の資料である。サブシリーズ2・「個人資料」は、資料受け入れの際に混入した私的資料であるため返却した。閲覧はできないが、資料群の総数には含まれている。

	サブシリーズ	内容備考	アイテム数
1	活動資料	捕鯨関係資料、豊島区公立保育園関係資料、イラク反戦運動関係、宇井純追悼式関係資料、グリーンピース関係資料、書簡（年賀状）など	75
2	個人資料	—	13

6、目録凡例

○ファイル名・アイテム名：

- ・原則として原資料に記載されたファイル名・アイテム名をそのまま使用した。但し、原資料に記載がないなど不明な場合は、ファイル名には [] を、アイテム名には {} でくくり、資料整理担当者が付与した名称を表記した。
- ・定期刊行物が複数まとまって一つのファイルとなっている場合は「[(団体名 ニュースレター)]」などとし、ファイル名とアイテム名の重複を避けた。

7、参考文献

- ・自然の権利セミナー報告書作成委員会編『報告 日本における [自然の権利]』運動 第1集』([自然の権利] セミナー、1998年)
- ・同上『報告 日本における [自然の権利]』運動 第2集』([自然の権利] セミナー、2004年)。
- ・鬼頭秀一『自然保護を問いなおす—環境倫理とネットワーク』(筑摩書房 くちくま新書)、1996年)
- ・中空萌「[新人世]時代の法の民族誌」(大村敬一、中空萌編『放送大学教材 フィールドワークと民族誌』放送大学教育振興会、2024年)。
- ・法政大学サステナビリティ研究教育機構編集・発行『サス研フォーラム講演記録集(第13回) 環境アーカイブとサステナビリティの探求』(2011年6月)。

資料群概要作成者：環境アーカイブズ R・A 須田佳実 (2024年8月)

※未公開分公開にあたり大幅に加筆修正した